

農林水産大臣賞受賞

風通しのよい、企業組合による「桜の郷」づくり！

受賞者 ^{きぎょうくみあい} 企業組合 ^{さと} さくらの郷
(福島県 ^{にほんまつし} 二本松市)

■ 地域の沿革と概要

^{にいどの}新殿地域（以下、「本地域」とい
う。）が含まれる岩代地域（旧岩代
^{いわしろ}町）は、平成 17 年 12 月の市町村合
併に伴い、旧二本松市、旧安達町及
び旧東和町とともに二本松市に編
入された地域である。

福島県中通り地方の北部の阿武
^{あぶ}隈山系に位置し、北に羽山、東に
^{くま}日山を抱き、狭い谷に沿って集落
^{ひやま}と畑や棚田が点在し、周囲を山林
が占めている典型的な中山間地域
であり、耕作地の標高は 350～480
m に位置している。

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

本地域は阿武隈山系の緩やかな中山
間地域（里山）に在し、養蚕業と稲作を
なりわいとしてきたが、農業者の高齢化
や兼業化により担い手が不足し、耕作放
棄地が増加する傾向にあった。

農家の女性有志 6 名が地域の将来を
危惧して立ち上がり、平成 12 年に小さ
な直売所を開設して郷づくりを開始し
たのが始まりで、平成 24 年に「企業組合
さくらの郷」が設立されてから、現体制
に至る。

第 1 図 位置図



第 1 表 地区の概要

事 項	内 容
地区の規模	大字単位の集団等
地区の性格	機能的な集団等
農 家 率 (内訳)	45.6% 総世帯数 745戸 総農家数 340戸
専兼別農家数 (内訳)	専業農家 27戸 1種兼業農家 21戸 2種兼業農家 165戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 2,186ha 耕地面積 296ha 田 127ha 畑 169ha 耕地率 13.5% 農家一戸当たり耕地面積 0.9ha

さくらの郷は、任意組織からスタートし、管理組合の設立、道の駅への登録、加工所・食堂等の増設に至り、企業組合（法人）にまで発展してきた。現在、組合員 84 名のうち、半数を超える 46 名を女性が占め、道の駅スタッフ 22 名中、20 名が女性であり「女性活躍の場」になっている。

2. むらづくりの基本的特徴

（１）むらづくりの動機、背景

ア むらづくりを行うに至った動機

本地域の将来を危惧し、地域が活性化する一つの風になればという思いから、現在「道の駅さくらの郷」がある場所に約 20 m²の小さなビニールハウスの直売所を平成 12 年 9 月に開設した。「ヴェレ新殿」（ドイツ語で「そよ風、波紋のように広がる心地よい風」）という意味の名にして、野菜・果物を土日の午後のみ販売したのが、郷づくりの始まりであった。

その後、野菜等を少量でも扱ってくれると周囲の関心が集まり、平成 13 年、出荷者に男性も加わり 20 名で、近くの旧消防屯所跡に場所を移し「808（はちまるはち）直売所」をオープンさせた。



写真1 小さなビニールハウスの直売所



写真2 直売所の農家女性
（当時のスタッフ）

イ 「さくらの郷管理組合」立ち上げまでの経過

小さな直売所だったが、本地域に出来たことで、今までなかった出会いや繋がりが、少しずつだが生まれていった。他地区に比べ高齢化・過疎化の進行が早い地域であるため、「地域の全ての農業者が出荷販売できるような場所、住民が憩える場所が必要なのではないか」と、地域全体の活性化を考えるようになり、直売所出荷者や地域の農業者で、当時の岩代町に町の直売所建設を働きかけた。

その結果、平成 14 年に岩代町農産物直売所建設が計画（中山間地域総合整備事業「新殿地区」で整備）され、それに伴い、平成 15 年に直売所を運営する任意組織「岩代町農産物直売所管理組合」を岩代町全域の農業者に呼びかけ 60 名で立ち上げた。

平成 16 年 4 月岩代町農産物直売所・農村交流施設がオープンし、直売所名を町民に公募したところ、合戦場のしだれ桜をはじめ直売所周囲に桜が多かったことから「さくらの郷」と命名し、以降「岩代町農産物直売所管理組合」は「さくらの郷管理組合」に平成 17 年名称変更し移行した。

ウ 「企業組合さくらの郷」設立

その後、市町村合併により二本松市から農産物直売施設「さくらの郷」の指定管理者に指定され、これらを契機に、地域活性化のための事業等を行える組織にするため法人化を目指すことになった。

株式会社か企業組合のどちらにするか各方面からの情報を収集し、理事会で何度も検討し迷いに迷った結果、出資額の多い少ないに関係なく、議決権・選挙権が平等に与えられ、事業運営に対して組合員全員に権利（一人一票の議決）があり、皆が参加しやすい企業組合に決め、平成 24 年 12 月「企業組合さくらの郷」を設立した。



写真 3 道の駅さくらの郷
(直売所・食堂棟)



写真 4 道の駅さくらの郷の女性スタッフ

○現在に至るまでの経過

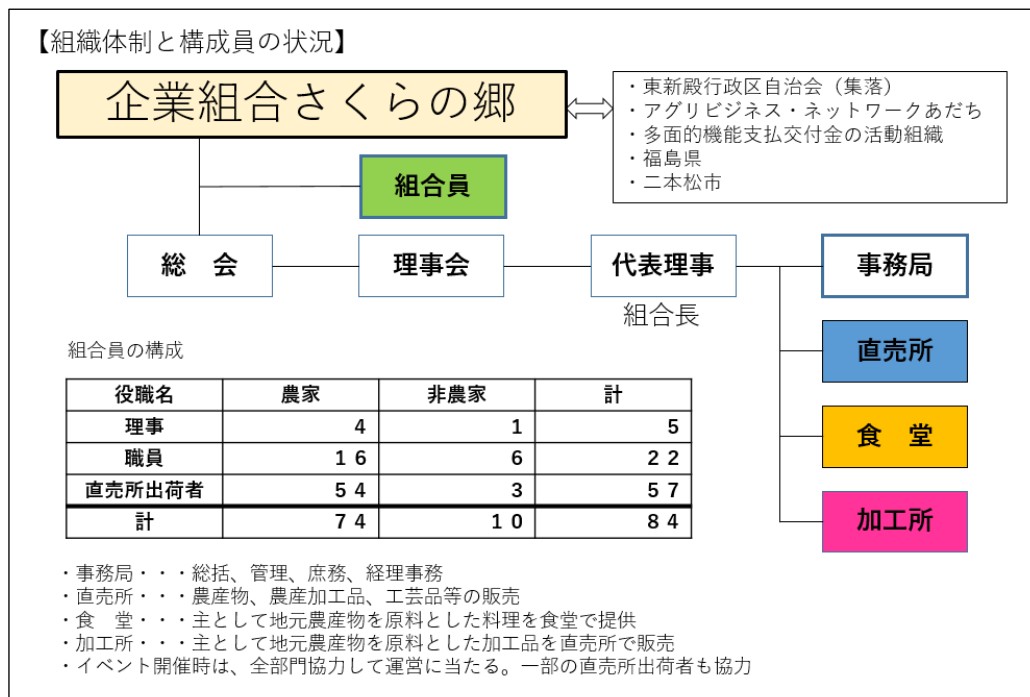
企業組合さくらの郷の主な経過について、以下に示す。

- 平成 12 年 農家の女性有志 6 名が直売所「ヴェレ新殿」を開設
- 平成 13 年 「808（はちまるはち）直売所」をオープン（※直売所設置場所が国道 459 号線と国道 349 号線が交差、この和を以て 808 直売所と命名）
- 平成 14 年 岩代町農産物直売所建設を計画
- 平成 15 年 「岩代町農産物直売所管理組合」立ち上げ
- 平成 16 年 岩代町農産物直売所・農村交流施設「さくらの郷」をオープン
- 平成 17 年 「さくらの郷管理組合」に管理組合の名称変更
市町村合併により旧岩代町が二本松市と合併
- 平成 18 年 二本松市から農産物直売施設「さくらの郷」の指定管理者に指定
- 平成 24 年 「企業組合さくらの郷」として法人化（企業組合）
- 平成 25 年 道の駅に登録される。
- 平成 26 年 「直売所・加工所・漬け物作業所」のリニューアル
- 平成 29 年 「さくらの郷食堂 808」営業開始

(3) むらづくりの推進体制

さくらの郷は、農家が 74 戸、非農家 10 戸から構成され、事務局が中心となり、農産物の生産、加工、販売、交流の各種事業を展開している。

また、東新殿行政区自治会（集落）、アグリビジネス・ネットワークあだち（直売や加工のノウハウや交流など）、行政（福島県・二本松市）等とも連携したむらづくりを行っている。



第2図 むらづくり推進体制図

■ むらづくりの特色と優秀性

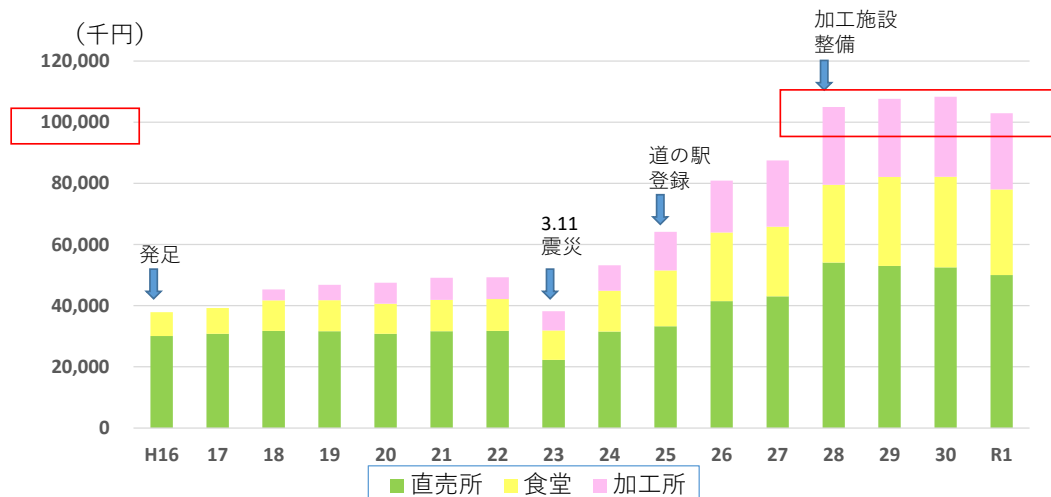
1. むらづくりの性格

本地域は「道の駅さくらの郷」を中心に、そばや野菜などの生産、加工品の製造・販売及び体験交流等を行っている。

地域に「心地よい風を吹かせたい～」という、女性リーダー（前組合長）の思いから発した夢は、農産物の加工や直売活動を通して「企業組合」にまで進展、地元の人々にも愛される、地域に根ざした取り組みになっている。

一人一票の民主的な組織で、原理的な議決ができる「企業組合」として、「道の駅さくらの郷」の指定管理を担い、組織を年々拡充してきている。（※組合員は、出資金 5,000 円の納付で誰でもなれる。）

特筆すべき点は、販売額（売上げ高）は、震災直後の平成 23 年に落ち込みを見たが、平成 25 年の道の駅登録以降は順調に売上げを伸ばし、平成 28 年以降は加工施設等をリニューアルしたこともあって、1 億円台を確保している。



第3図 販売額の推移グラフ

2. 農業生産面における特徴

直売所開設により、農産物を直売できるようになったことから、組合員が新たな農産物（そば、かぼちゃ、ごぼう、じゃがいも、ほうれんそうなどの野菜）に挑戦するようになり、生産意欲を向上させ、多品目の野菜販売もあって、農家の所得向上につながっている。

耕作放棄地を解消するための対策として、そば栽培を推進し、道の駅で全量を買ってあげて、道の駅「さくら食堂 808」で看板メニュー「十割手打ちそば」等を提供するなど、地元農産物を利用し、地産地消を重視した6次産業化の推進により、加工品の製造を行っている。

(1) 遊休農地へのそば作付け

農業者の高齢化、後継者不足のため遊休農地（耕作放棄地）が増加してきているので、組合で平成 26 年から遊休農地にそば栽培を推進している。そばの美しい花が咲き誇る風景を次世代につなげるため、また、地域の特産品づくりのため、地域一丸となって維持がなされている。

当初は耕作者 10 名で 3 ha ほどの作付けだったが、令和元年は 13 名で 5.8ha の作付けがあり、「企業組合さくらの郷」が汎用型コンバインで収穫を行い、全量を買ってあげ「さくら食堂 808」にて「十割手打ちそば」として提供、加工所ではそば菓子等に加工・販売し、好評を得ている。



写真5 そばのほ場と収穫作業



写真6 十割そばとごんぼコロケ
けんちん汁

（２）農産物の作付け推進

道の駅の加工所や食堂では、地元農産物を材料とした加工品や料理を作っており、これらを地元から調達するために、そばをはじめ、コロッケ用のじゃがいもやうどん用の小麦等、組合員に作付け拡大を働きかけている。

この働きかけは、一畝運動（少量多品目の栽培）と地元で呼ばれ、多様な作物の生産・出荷に、無理なく協力してもらっている。最近は、お盆花市等も開催しているので、切り花に取り組む組合員も増加している。

（３）組合員の経営改善

現在、組合員 84 名中、74 名が直売所に農産物を出荷している。直売所が開設される前は J A が主であり、ある程度の出荷量（ロット）がなければ出荷出来なかったが、一畝運動により高齢者・移住者（定住者含む）でも取り組みやすく、組合員なら誰でも直売所に出荷が可能になり、経営は改善してきている。

特に、高齢の組合員には、栽培と出荷により所得があるため、生きがいとなり、健康増進の効果も期待されている。

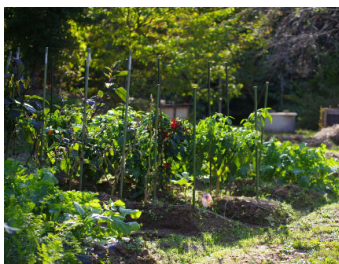


写真7 一畝運動の畑
（野菜の少量栽培）



写真8 直売所での販売
（少量でも扱い可能）



写真9 ガス発電設備
（防災機能の強化）

（４）後継者の育成・確保

令和２年度には、新たに「夢未来いなか塾」を開催し、福島県内の高校生・大学生を対象に、二本松市と連携し「田舎の未来プロデューサー」を広く募集し、違った視点での地域 P R、地域再発見につなげるとともに、若い世代へ「道の駅さくらの郷」の魅力を伝えるとともに、将来の地域づくりの後継者を育成している。

３．生活・環境整備面における特徴

観光資源（合戦場のしだれ桜）を活用したイベント等を開催、郷土食の伝承や地元住民、大学等との交流などにより、賑わいの創出にも寄与し、地域交流を活発に行い、関係人口を増加させている。

また、道の駅では定期的に防災訓練を実施、石油製品利用促進対策事業（経済産業省・ガスバルクはサウジラビア国より寄贈）で「ガス発電システム」を整備し、災害時に対応できる体制（防災拠点機能）を構築してい

る。

企業組合が管理する道の駅は、道路利用者の休憩の場のみならず、農産物直売所として、今後も、関係人口の増加の更なる促進により、地域のコミュニティ醸成の場として、小さな拠点としての役割を果たしている。

（１）環境整備面の取組状況

本地域の近隣住民や道の駅に立ち寄る方が気持ち良く過ごせるよう、敷地内外、道の駅周囲の草刈り作業等を行うとともに、道の駅周辺の道路脇やガードレール下に毎年春、マリーゴールドやサルビア等の花の植栽を行っている。



写真 10 歩道への花の植栽



写真 11 マリーゴールドの花

（２）コミュニティ活動の強化

案山子コンテストやそば祭りなど、地元住民や子どもたちが参加できる多彩なイベントを毎年開催し、地域交流を図っている。

地元高齢者においては、周囲にスーパーや食堂等が無いため、「道の駅さくらの郷」を買い物や休憩で利用する方の頻度が多く、憩いやコミュニティの場になっている。

また、高齢者から子ども達への郷土料理の継承等、食農教育に関しても企画・開催し、世代間交流も行われている。



写真 12 子ども達との料理づくり



写真 13 そば祭りでのそば打ち